陸上運動部部便り

2009 年 9 月号

一橋戦

目 次

1 一橋戦 1

1.1 監督の言葉 1

1.2 主将の言葉 2

1.3 女子主将の言葉 2

1.4 試合経過 2

1.5 試合結果 7

2 自己記録更新者一覧 2009.7.27〜9.12 10

3 2009 年度部内 5 傑 10

4 主務より 12

4.1 応援 OB・OG 紹介 12

4.2 行事予定 12

4.3 訃報 12

4.4 連絡先 (慶弔等) 12

1 一橋戦

1.1 監督の言葉

監督 寺田秋夫

-男子一橋戦:大苦戦、女子三大戦:完勝で圧勝-

今年の一橋-東大対校、女子東京三大学戦は終日雨時々曇りと肌寒いコンディションの中、町田市営陸上競技場で開催されました。

男子は例年、エースは温存し下級生の力を試すような位置づけの試合でしたが、今年は持ち記録だけ見てみると、ベストのエントリーをしないと勝ち目はない程に実力が伯仲しており、故障者は除きほぼベストメンバーでのエントリーとなりました。但し、一橋はエースが多種目出場し大量点を取る戦術で、選手数に勝る本学が勝って当然で、一橋のスタミナ切れではなく本学選手の奮起での勝利を期待して臨みました。大敗も覚悟した 100m、例年上位独占を許してしまう 1500m で、それぞれ 2 点負け、1 着確保と順調に始まりましたが、400 mで本学の 4 点負けとなると、一橋側は「これで勝てる」と、一気に気勢が上がってきました。それでも、長距離の地力と幅跳び陣の勝負強さで大きく勝ち越せると期待しましたが思った程には差がつかず、4x400m リレーを残して 2 点負けとなり、リレーで勝てば、同点ながら優勝種目数で本学勝利というところまで追い詰められてしまいました。結果はリレーで勝ち、得点では引き分けにはおさめました。一橋の 4x400m のアンカーは実力者でしたが走力差以上の追い上げを見せ、今年こそは東大を倒そうという強い気持ちが見てとれました。また、先方の各部員は、本学の各種目 3 番手の持ち記録や、勝負強さ等も良く把握しており、本学が京大戦や七大戦に臨む体制以上のものを感じました。本学選手も、ミスをした訳ではありませんでしたし、このコンディションの中で自己記録を更新する者もいました。が、本番での闘争心の差があったことは否めません。一橋の得点のベースは 3 年生で、本学も残念ながら 4 年生で挙げた得点は少なく、来年のこの試合は特に中堅層の選手の 1 年間の成長の差が問われる試合となりそうです。なお、5000m オープンで院生が新たに 2 名 17 分を切り、今年も箱根予選会のフルエントリーが確定しました。他方、女子は、最初から優勝を目指してはいましたが、100m の久保木 (1 年) を皮切りに全種目で優勝し、トラック・フィールド得点優勝もし、完全制覇の優勝となりました。津田塾の純短系が元気がなかったことも要因ですが、こちらは男子と違い、本番での勝負強さをいかんなく発揮しての内容でしたので。京大戦もレベル高く戦ってくれそうです。中でも、幅跳び、砲丸投げで厳しい展開を冷静に戦い勝ってくれたのは収穫です。また、新しいリレーオーダーで、今期 2 番目の 52”51 をマークしたのも次への展望が開けました。今の女子部員は対校での勝利経験がなかったのですが、これで自信をもって京大戦を迎えると思います。京大戦は 2 人選手 4 点制ですので、スーパー 1 年生の岩橋さんを 400m 以上でどう攻略するかと、

フィールドで実力通りに勝てるかが勝負のポイントです。男子の京大戦も、京大勢も持ち記録で見れば本学と互角ですので、今日結果に悲観する必要はなく、今日のように持ち記録並みにプレーできれば接戦にはなります。ただし、持ち記録通りの結果なら試合をする意味がないので、2,3 番手がどれだけ頑張れるかと、双方レベルの低い種目をどう戦うかがカギです。京大戦は、もう目の前ですが、男子は、今回の結果を京大戦にむけて気持ちを引き締めるきっかけとし、何としても勝ちたいという強い気持ちを取り戻させたいと思います。変わらぬご声援をお願い申し上げます。

1.2　主将の言葉

主将 廣瀬　彬

一橋戦、同点の優勝数差での勝利。部員数が 3 分の 1 の相手に過去に例のない苦戦を強いられました。投擲陣の主力選手をケガで欠き、長距離陣は合宿あけで疲れが残る中での戦いではあったものの、惨敗に等しい結果と言わざるを得ません。しかし、この結果で部の中にこのままではいけないという雰囲気が出てきました。すぐに変わるというのは難しいと思いますが、実際にこのような結果を目の当たりにしたことによって、部員一人一人の意識を改革できたのは来年以降のことを考えると良かったのではないかと思います。また、エントリー時にはケガなどで対校選手からもれた選手が、短距離を中心に好記録を残し順調に回復している点も京大戦にむけての好材料です。

一橋戦では情けない戦いをしてしまい本当に申し訳ない気持ちでいっぱいです。京大戦まで 3 週間足らずですが、1 年の締めくくりの対校戦として有終の美を飾るべく、できる限りのことをやって頑張っていきますので、変わらぬ応援よろしくお願いいたします。

1.3　女子主将の言葉

女子主将 日下桃子

ここ 3、4 年間、あらゆる対校戦で負けを喫し続けた女子チームですが、ついに悲願の総合優勝を果たしました。安定した力のある 3、4 年生と、勢いのある 1 年生が揃い、チームの状態としてもベストでしたが、全種目優勝して 11 点差での圧勝できたことは予想以上の結果でした。最初の種目の 100m で久保木 (1 年) が優勝、1500m で 1、2 フィニッシュと快調な滑り出しから、最後の 4 × 100mR の勝利まで、良い流れを作り出すことができ、「チームで戦う」ということを体現できた気持ちの良い大会でした。今回の結果を自信にして、京大戦に向けてまた調子を上げて、精一杯戦いたいと思います。これからもご指導、ご支援のほど、よろしくお願いいたします。

1.4　試合経過

トラック

10:00　男子 100m 決勝

3 レーンに都井 (4 年)、5 レーンに中嶋 (4 年)、7 レーンに西田 (3 年) の出場。すっかりと夏の気配も薄れ、肌寒くなってきた中、その寒さに追い打ちをかけるように冷たい雨が降っている。一橋との死闘の幕開けとなる 100m 決勝の始まりを、町田の山に響き渡る号砲が告げた。3 レーンの都井は、序盤から終盤まで落ち着いたレース展開を見せる。隣のレーンの選手の追い上げにも焦ることなく、自分の走りを守り切ってフィニッシュ。11”43 の 4 位であった。持ち味の加速が見られなかったのが残念か。5 レーンの中嶋の素晴らしいスタートはもはや専売特許。ものの数歩で他の選手に差が生まれた。しかし課題は後半の伸びにあるようで、失速。11”45 の 5 位でゴールした。欠点を修正した上での京大戦での活躍が期待される。7 レーンの西田は跳躍パートからの参戦。序盤はまずまずのスタート。そこからが本領発揮といったところ、中盤にかけて猛烈な追い上げを見せる。しかしながら後半はリズムが崩れ失速、惜しくも 2 位に終わった。この時のタイムは 11”15、風は+0.1m であった。気温が低いこともあり、皆決して悪くないタイムであるが、京大戦ではさらなる飛躍が求められる。

10:20　女子 100m 決勝

3 レーンに清水 (4 年)、6 レーンに久保木 (1 年) が出場した。当日は朝から雨が続いており、決してコンディションがいいとは言えないなかの対抗戦である。3 レーンを走る清水は 4 年生、6 レーンを走る久保木は

1 年生。双方とも京大戦に向けて調子を上げていく途中でのレースとなった。スタートの号砲とともに、清水、久保木とも良いスタートを切った。が、他の選手もいいスタートを切っており、この時点では誰が先頭ともいえないくらい並んでいた。30 メートル地点あたりで徐々に久保木が周りから抜け出ていった。しかし 5 レーンを走る一橋の選手も必死に追いすがり、久保木はその選手を引き離すには至らない。一方清水は序盤で少し出遅れたが、4 レーンの選手と競っているうちに久保木との差を徐々に詰めていった。久保木はそのまま先頭を守りぬき 1 着でゴール。記録は 13”43。清水は一橋の選手を一人追い抜き 3 着だった。記録は 13”63 だった。風は ±0.0m だった。この 1 レースで東大は 10 点を獲得することができ、総合優勝に大きく貢献することができた。来る京大戦は今回よりも厳しい戦いが予想されるが、今回良かったところ、悪かったところをよく検証し京大戦でも良い結果を出してほしい。

10:40　男子 1500m 決勝

石川 (4 年)、横田 (4 年)、渡邉 (3 年) の出場。中距離チーフの石川と今回は 800 mの対校がないため、普段は 800 mで活躍する横田、渡邉という 3 人である。申請タイムから考えると一橋の上位独占ということも考えられている状態で本番を迎えることになった。アップの時間帯から雨がかなり降っており、調整が難しい中でレースが始まった。スローな入りで先頭に石川、横田、続いて一橋勢、後ろに渡邉がつくという状況で 400 mの通過は 70 ”、そのままの集団状態で 800 mも 2’24”、この一周 74 ”のスローペースのままレースは進んだ。800 mを過ぎたところで、一橋の選手が前に出て少しペースをあげ集団が縦長に崩れた。ラスト一周の鐘がなったところで、序盤引っ張っていた石川、横田が切り替えについていけず遅れてしまう。この時点で一橋 2 人と渡邉がトップ争いをする形になる。1200 mの通過が 3’29”、この一周が 65” と一気にペースが上がったことがわかる。そのまま 3 人がだんごになった状態でラスト 200 m地点を迎える。ここで渡邉が前にでてスパートをかけた。カーブでは後ろにつけ、直線に入ったところでもう一段上のスパートを見せた。一橋も追い上げるがそのまま逃げ切り 1 位の 4’13”24 でゴール、ラスト一周は 60” という速さであった。横田は 4’22”96 の 5 位、石川は 4’25”47 の 6 位という結果に終わった。この種目東大は 4 点を獲得した。

得点では負け越したものの、試合序盤での奮闘にチームも盛り上がった。参考記録においては及ばなかったが、レース序盤を、石川、横田がうまくスロー展開で引っ張り、スピードがある渡邉にラスト勝負をさせるという理想的な展開になったと言える。次の京大戦ではこうはうまくはいかないと思われるため、短い時間ではあるがしっかりと力をつけていきたい。

11:00　女子 1500m 決勝

日下 (4 年)、杉浦 (1 年) の出場。日下は去年に引き続き 400m との二冠が期待される。杉浦が津田塾大の 2 番手とどこまで張れるかが鍵である。

号砲が鳴る。スタートから日下、津田塾大の 2 人がレースを引っ張る形となる。一週目の通過は 78”。そのまま後ろとの差を広げていく。日下が 600m 過ぎに相手を離し始め、そのまま独走状態になる。津田塾大のペースが落ちたこともあり今まで後方にいた杉浦が 800m 過ぎしだいに前との差を縮め、900m では後ろにぴったりつく形となった。そのまま並走しラスト 1 周でスパートをかける。津田塾大は杉浦に全くつくことができない。先頭の日下は後ろに追いつかれることなく、5’06”15 の 1 位でゴール。杉浦も 1 周で相手を 50m ほど離す素晴らしいスパートを見せ、自己ベストの 5’16”35 の 2 位でゴール。この種目東大は 11 点を獲得。日下は流石の走りであった。京大戦でも他種目出場となるので良い結果を期待したい。杉浦は普段 3000m の選手であり、1500m のレースはいい経験になっただろう。京大戦の 3000m につながる良い結果であった。

11:20　男子 110mH 決勝

3 レーンに酒谷 (3 年)、5 レーンに江間 (3 年)、7 レーンに増本 (3 年) の出場。今に

も雨が降りそうな雲がただよう冷ややかな天候の中、レースは行われる。東大勝利のためにも、まず酒谷の優勝、そして本日 5 種目に出場するラッシュを筆頭とする一橋に、増本、江間がいかに戦えるかがポイントとなる。号砲が鳴る。スタートは酒谷が一番手、すぐ後にラッシュが続く。序盤は酒谷とラッシュが激しい競り合いを繰り広げるが、中盤以降酒谷がリードを広げ、堂々の 1 着フィニッシュ。続いてラッシュ、増本、最後にトルソーで江間がゴールになだれこむ。結果は酒谷が 1 位で 15”26、増本が 3 位で 15”90、江間が 4 位で 16”39、無風であった。110mH としては一橋に勝ち越す結果となり、順当とは言えチームに良い流れを与えるものであった。

12:00　男子 400m 決勝

午前中の雨はやんだが、九月に似合わない寒さが残った昼飯時。400m には 2 レーンに川村 (4 年)、4 レーンに赤木 (3 年)、6 レーンに大澤 (1 年) の出場。一方の一橋もラッシュ恵をはじめとする手強いオーダーである。なんとかしてここで得点差をつけたいところ。レース序盤、号砲と共に飛び出たのは大澤とラッシュ。バックストレートにさしかかったが、幾分か大澤の方がリードしているのでは。一方の川村、赤木は自分のペースで一橋の選手についている。まだまだ勝負圏内。コーナーにさしかかったとき、大澤、少し疲れたのか、ラッシュに先を越される。赤木、川村の両者もここで相手に先を越されたようだ。ここはラスト 100m でなんとかしたいところ。最後のストレート、大澤はスパートをかけるがなかなかラッシュに追い付かない。ラッシュは最後の最後で勝ちを確信したのか、流してそのままフィニッシュ。そこに大澤が続き、一橋の対校選手二人、赤木、川村の順にゴール。結果は大澤は 50”71 の 2 位、赤木は 51”24 で 5 位、川村は 52”08 の 6 位であった。このレースでは一橋にゴッソリと得点を持っていかれてしまった。400m 陣営がマイルでこの結果を埋め合わせるだけの成果を出してくれるのを願う。余裕の走りを見せつけたラッシュの爆発力に注意したい。

12:20　女子 400m 決勝

3 レーンに日下 (4 年)、6 レーンに浜松 (1 年) の出場。スタート直前に強い雨が降り出す。中距離が専門の 2 人なので、スタートからどう出れるかが鍵となる。日下は昨年に引き続く 1500m との 2 冠が期待される。号砲が鳴る。スタート後、やはり初期加速で差がついたか、東大勢は先頭からやや離される。日下はバックストレートからスピードにのっていき 200m 地点で先頭を捉える。スピードにのったまま先頭に立つと、300m からは腕を大きく振り後続を振り切って 1’01”62 の 1 位でゴール。浜松はインレーンの選手が序盤から視界に入り焦ったためか、なかなかスピードにのれない。200m 通過のあたりからフォームも崩れだしてしまう。ホームストレートでも伸びを欠き、そのまま離されてしまう。結果、浜松は 1’08”23 の 5 位でゴール。この種目東大は 8 点を獲得した。日下は昨年に引き続き 1500m との 2 冠を達成した。浜松は今回 1500mOP を走り、2 種目出場を試したが、厳しい結果となった。

13:40　男子 4 × 100mR 決勝

午前中は一時的に激しい雨も降ったが、このレースの時は既に雨は止んでおり風も穏やか。気温こそ低いが、決して悪条件ではない中でのレースとなる。中嶋 (4 年)-都井 (4 年)-増本 (3 年)-西田 (3 年) の順で出場。エントリーの段階で脚に不安のあった春日 (2 年) を含まないオーダーとなっている。また、外側の一橋を追いかけるかたちとなる。まず、一走の中嶋はまずまずの走り。ややリードした状態で、都井にバトンが渡った。ここはエース区間ということもあり、厳しい展開が予想されたが、やはり都井はリードを失い、逆転されたまま次の増本につないだ。しかし、見せどころのカーブで、増本はぐんぐんと一橋を追い上げていった。さらに、バトンパスで一 橋が少々もたついたのか、アンカーの西田にバトンが渡った時点で東大がトップに立った。加速走には定評のある西田だけあって、リードを最後まで守り、最後は横を見てガッツポーズをしながらフィニッシュ。この時の

タイムは 42”96 であり、一橋の記録 43”05 と差は 0.1 秒も無かったことを考えると、まだまだ課題の残るレースとなった。最後の京大戦ではどこまで食らいつくことができるのか、期待したい。

14:50　男子 5000m 決勝

青木 (2 年)、東 (2 年)、山田 (2 年）の出場。当初山崎 (4 年）が出場予定であったが、故障の影響から出場を見送った。断続的に降り続いていた雨は止んでおり、涼しく 5000m には絶好のコンディションであった。序盤は東を先頭に集団でのレースが進んだ。1000m 通過が 3’15” とゆっくりとした入りで、2000m 通過が 6’23”。2400m 付近で山田が先頭に出て集団を引っ張るが、3000m 通過が 9’32 ”とペースは変わらない。3700m 付近で東と一橋大の森田が引っ張る展開になると一橋大の庄司が遅れ、先頭を 5 人で争う形となった。そのまま 4000m を 12’44” で通過し、4300m で森田がスパートをかけると、東は反応するが、他の 3 人は遅れてしまう。東は森田に必死に食らいつき、ラスト 100m で森田を捕えそのまま 15’29”65 の 1 位でゴール。4500m 付近で一橋大の大垣に離されてしまった青木、山田はそれぞれ 15’41”99 の 4 位、15’45”18 の 5 位でゴールした。この種目での対校得点は同点であり、一橋大との直接の対戦であった 5 月の国公立戦の結果を考慮すると物足りない観が否めないが、8 月の長期合宿での疲労を考慮するとある程度は致し方ないと言えよう。対校選手を始め、多くの部員が合宿を経て確実に力をつけているので、今後の京大戦、更には箱根予選会での飛躍を期待したい。

15:30　女子 4 × 100mR 決勝

4 レーンに鈴木 (1 年)-清水 (4 年)-高山 (3 年)-久保木 (1 年) の順で出場。昨年に引き続き一橋大のエントリーがなく津田塾との一騎打ちとなる。例年オーダー組みに苦しみ、中距離種目に日中酷使した日下を最終種目でも使わねばならないなど悪条件に喘いでいたが、今年は純短系が 3 人揃う万全の布陣。直前の種目までで 4 年ぶりの優勝が決まっているが、ならば目指すは全種目 1 位獲得である。応援にも熱が入る。号砲と共に鈴木が飛び出す。スタートでは硬さが見られたが中間疾走がよく、内側を走る津田塾を引き離していく。曲走路終盤にあっては再び体に力が入ってしまい減速するが、それでもまずまずの貯金を作って清水へ。清水は加速がよく飛び出すが、内側から迫る津田塾の杉江が早い。猛烈な突き上げを受け徐々にリードを食いつぶしてしまうが、後半に粘りを見せ、僅かな差で先に 3 走にバトンを渡す。3 走高山は跳躍選手らしい爆発力で序盤に差を広げる。隣レーンがバトンパスで失速したのを見逃さず、曲走路中央までの間でぐいと差を広げる。しかしながら後半は走りに精彩を欠き、じりじりと後退。疲れもあってか曲走路出口で巻き返した津田塾に一気に差し込まれ、ややリードを奪われる形でバトンパス。何としても巻き返したい久保木は懸命に加速するも序盤はなかなか差を詰められない。しかし 30m 付近から猛烈なスパートをかけ、50m 手前で鮮やかに逆転。その後も追いすがる津田塾をぐいぐい引き離し、53”10 の 1 位でフィニッシュした。これにて全種目 1 位獲得の快挙が実現した。勢いそのままに、次は京大戦での完勝を目指す。

15:40　男子 4 × 400mR 決勝

4 × 400mR 直前。総合得点を見ると東大 52 点、一橋 54 点。4 × 400mR で東大が負ければ一橋の優勝、東大の敗北。稀にみる接戦の中、4 × 400mR は行われた。走順は大澤 (1 年)-定金 (3 年)-赤木 (3 年)-原 (3 年) である。全員が 3 年生以下という若いチーム構成での出場となった。1 年大澤が 1 走を務める。順調なスタートを切る。中盤から徐々に加速し、終盤で一橋を突き放す。東大がわずかにリードした状態で 2 走の定金へとバトンパス。2 走定金は序盤からとばしていき、100m 地点を通る頃には更に差を広げていった。バックストレートでも一橋を寄せ付けない走りを見せた定金は、40m 程一橋を離した状態でホームストレートへ。大きく差をつけたまま 3 走赤木へバトンパス。3 走赤木は序盤で一橋にわずかな追い上げを許したが、東大のリードを守

りつつ、4 走原へバトンパス。総合優勝がかかる一橋は序盤からハイペースで原を追い上げる。原も追い上げを許すまいと必死な走りを見せるも、他の種目をこなした疲れからか思うような走りができない。ホームストレートに入ったあたりから一橋が急激にその差を詰めてきた。もうこれまでか、というところで原が無事にゴールした。その差 0.5 秒だった。東大の記録は 3'24"18 だった。総合優勝を争う熱い戦いを東大の勝利で飾ることができて本当に良かったと思う。次の京大戦でも今回のような接戦になることが予想される。残された時間は短いができる限りの準備をして京大戦に臨みたい。

フィールド

10:00 男子円盤投 決勝

原 (3 年)、佐々木 (1 年)、片山 (1 年) の出場。気温は涼しかったが、天候は雨で、競技にはやや難しい条件となった。各々が練習通りの投擲で実力を発揮し、上位に食い込むことが期待された。原は雨の影響か 1、2 投はファールし、3 投目に 25m27 を出して 4 位で折り返す。しかしその後も、4 投目はファール、5 投目 24m07、6 投目 24m48 と本来の力を出し切れず 4 位で試技を終える。片山は 1 投目に 27m48、2 投目に 27m73 を投げ、3 投目はファールで 2 位となる。4 投目に一橋の選手に抜かれて自身は 20m96 を投げ 2 位が危ぶまれたが、5 投目に 28m30、6 投目 28m10 でなんとか 2 位を取り返した。佐々木は 1 投目に 34m20、2 投目に 35m02 を投げ 1 位を終始キープした。だが 3 投目からは、雨脚が強まったこともあり、全てファールとなってしまった。全員が点数を獲得した点はよかったが、個々人の実力を考えるとものの足りない記録であった。更なる精進を期待したい。

11:20 男子砲丸投 決勝

寺島 (4 年)、原 (3 年)、片山 (1 年) の出場。一時的に雨脚が弱まったとはいえ、サークルが水浸しという悪条件での試合となった。持ち記録が似通った選手が多く、混戦が予想された。寺島は雨のせいか最初の投擲で失敗するが、すぐに軌道修正した。9m 台後半を投げる一橋の選手を追うが一歩及ばず、最終的には 9m17 の 2 位であった。原は毎度のごとく多種目出場しており、雨で体が冷えたのか記録は振るわなかった。結果は 9m09 の 3 位であった。砲丸投初出場である片山はグライドが上手くいかないが、立ち投げで 8m95 を記録し一橋の 2 人を抑え 4 位であった。結果、東大はこの種目で一橋に 2 点リードしたが、1 位は獲得できなかった。砲丸投は現状このチームの弱点となっている。投擲選手は対校戦での重要性を認識して、第二の専門種目として練習してほしい。また、他パートの選手も積極的に挑戦してみてほしい。

11:20 女子砲丸投 決勝

楠木 (4 年)、岩上 (1 年) の出場。雨天で肌寒く、足場が悪い中での試技となった。楠木は七大戦以降不調を感じつつも女子の優勝も意識し、1 位を狙う。岩上は課題であるサークルから出ないということを心掛けて臨む。楠木の 1 投目は 7m58 であり、やはり雨の影響による足場の悪さを実感する。しかし徐々に実力を発揮し、他大学の選手が 7m 台以下の記録に止まる中 6 投中 3 投で 8m 台を記録するなど、他の選手の追随を許さない。記録は 8m28 の 1 位。岩上は 1 投目で自己の公式記録を塗り替えたものの、練習での力を十分に発揮することができない。その後も 6m 前後の記録が続く。無事 6 投すべてにおいてサークル内に止まることができたものの、記録は 6m28 の 5 位。また、ともに最後の試技で決勝記録を出すという粘り強さを見せた。楠木は、今回の記録は自己ベストには及ばなかったが調子が回復しつつあり、今後さらに記録を更新することが予想される。岩上は今後も砲丸投に出場する機会があるだろうが、練習中に本番のことを意識するなど、本番で存分に力が発揮できるようになってほしい。

13:00 男子走幅跳 決勝

廣瀬 (4 年)、浅沼 (4 年)、西田 (3 年) の出場。雨上がりの空の下、心地好い風の吹く中で競技は行われた。廣瀬はなかなか助走のスピードを上げられず、精彩を欠く。最後まで記録を思うように伸ばせず、6m29 で

3 位。浅沼は安定した跳躍を見せるが、いまひとつ突き抜けることが出来ない。5m90 で 5 位。西田は一本目から力強い跳躍を見せ、途中他競技に出場するため二本をパスする場面も見られたが、6m89 の記録を残し 1 位を獲得する。以上により、この種目での東大の得点は 6 点、辛勝であった。続く京大戦で勝ち越すためには特に 2、3 番手の選手の調整が求められる。4 年生にとって最後の対校戦になるであろう京大戦では、ぜひとも表彰台を独占出来るように最後の調整に励んでもらいたい。

13:00　女子走幅跳 決勝

清水 (4 年) と高山 (3 年) の出場。午前中の強い雨は弱まり、時折霧雨が舞う中での競技開始となった。清水は走りの調子も良く、練習では助走の流れがよくできていたが、当日は助走が合わずに苦戦した。1 跳目で 3m84、2 跳目で 4m05 と記録を伸ばし、その後も何度も安定して 4m 近い跳躍をするが、助走が完全に合っていないために思い切った跳躍ができず、小さくまとまってしまっていた。結局、2 跳目に記録した 4m05 を塗り替えることはできず、4 位で試技を終えた。高山は、1 跳目をファールしてしまうが、助走のリズムを立て直し、2 跳目で 4m82 の好記録をマークし、トップに立つ。ここで落ち着きを取り戻した高山は、さらに 5 跳目・6 跳目でも記録を伸ばし、4m89 で 1 位を獲得した。10 月の京大戦で確実に得点するために、清水は助走練習をさらに重ね、本番でも助走をきっちりと合わせてスピードを活かした跳躍をすること、高山は現在改良中の踏切をものにし、スピードに乗って踏み切ることができるようになることが求められる。京大戦へ向けて、両者の奮起を期待したい。

13:30　男子やり投 決勝

原 (3 年)、山東 (1 年) の出場。もう 1 人出場するはずだった今村 (1 年) が肘を痛めて欠場し、2 人で試合に臨むことになった。午前中に雨が降り、地面が滑りやすい悪コンディションの中で試合は行われた。原は円盤、砲丸の後で、疲労を残したまま迎えることになった。1 投目は 34m 台で、不安を感じさせる投擲であった。3 番につけて後半 3 投に臨んだが、一橋の選手に記録を抜かれ、その後の投擲もなかなか記録が伸びず、結果は 38m22 で 4 位に終わった。山東は自身にとって初めての対校戦で緊張している様子であり、動きが硬かった。雨で滑ることを気にしてなかなか助走がうまくいかず、結果は 28m75 で 5 位に終わった。結局 2 人で 1 点しか取ることができず、対校戦において大きく足を引っ張る結果となった。今後は 2 人の伸びに期待するとともに、一人ひとりの選手が怪我に注意して、しっかりコンディションを整えてベストメンバーで試合に臨んでくれることを期待したい。

14:50　男子走高跳 決勝

荒井 (4 年)、坂本 (3 年)、土居 (2 年) の出場。残る競技は走高跳と 4 × 400mR だけとなり、この時点で総合得点は同点。この種目の結果が総合優勝を左右するとあり、部員の声援も熱くなる。競技場中の視線を集める中、競技が開始された。土居は専門種目ではないが、今回は対校選手として出場。公式練習ではバーを落とす場面が見られ、調子が悪いかと思われた。しかし、1m45 から競技を開始し、これを難なくクリア。続く 1m50 も 1 跳目で成功し、１ m55 に挑戦する。これは 3 跳とも失敗し、記録は 1m50 となった。荒井は、1m55 から競技を開始。1m55、1m60 を一回で成功させ、4 位以内を確定させた。続いて 1m65、1 跳目はうまく踏切ることができず失敗。2、3 跳目も体が浮ききらず、バーを越えることはできなかった。坂本は 1m70 から開始するが、1 跳目を失敗。一橋に総合で勝つには坂本の 2 位以内入賞が必要で、部員たちに不安がよぎる。しかし、1m70 を 2 跳目で成功させると、続く 1m75 も 1 跳目で成功させ、2 位以内を確定させる。1m80 は 1、2 跳目を失敗したものの、3 跳目で成功し会場を沸かせた。1m85 はクリアできず、記録は 1m80 となった。結果、土居が 5 位、荒井が 4 位、坂本が 2 位で、合計 4 点を獲得。総合優勝の希望をかろうじて 4 × 400mR につなげることができた。しかし、京大戦ではさらなる苦戦を強いられることになるだ

ろう。東大の苦手種目とみなされがちな走高跳ではあるが、残された時間で少しでもレベルアップして、優勝争いに貢献できることを期待したい。

1.5　試合結果

第 51 回東京大学・一橋大学対校陸上競技大会
第 6 回東京三大学女子対校陸上競技大会

於 町田市営陸上競技場 (H21.9.12)

男子 100m 決勝 (+0.1)			
1	永田雅之	一橋大	11”13
2	西田昂広	東京大	11”15
3	ラッシュ恵	一橋大	11”24
4	都井紘	東京大	11”43
5	中嶋毅彰	東京大	11”45
6	西岡大喜	一橋大	12”02

男子 400m 決勝			
1	ラッシュ恵	一橋大	50”34
2	大澤渉	東京大	50”71
3	永田雅之	一橋大	50”72
4	白神豊	一橋大	51”01
5	赤木裕	東京大	51”24
6	川村知正	東京大	52”08

男子 1500m 決勝			
1	渡邊拓也	東京大	4’13”24
2	石川宗史	一橋大	4’13”62
3	斎藤和輝	一橋大	4’14”91
4	大垣秀介	一橋大	4’17”00
5	横田祥	東京大	4’22”96
6	石川恭平	東京大	4’25”47

男子 5000m 決勝			
1	東大貴	東京大	15’29”65
2	森田雄祐	一橋大	15’30”09
3	大垣秀介	一橋大	15’35”88
4	青木佑樹	東京大	15’41”99
5	山田竜也	東京大	15’45”18
6	庄司頼太	一橋大	16’15”99

男子 110mH 決勝 (±0.0)			
1	酒谷彰一	東京大	15”26
2	ラッシュ恵	一橋大	15”69
3	増本健太郎	東京大	15”90
4	江間輝裕	東京大	16”39
5	石川順章	一橋大	16”41
–	小沢順	一橋大	DNS

男子 4 × 100mR 決勝		
1	東京大	42”96
(中嶋-都井-増本-西田)		
2	一橋大	43”05

男子 4 × 400mR 決勝		
1	東京大	3’24”18
(大澤-定金-赤木-原)		
2	一橋大	3’24”52

男子走幅跳決勝			
1	西田昂広	東京大	6m89(±0.0)
2	小沢順	一橋大	6m58(+0.1)
3	廣瀬彬	東京大	6m29(+0.3)
4	石川順章	一橋大	6m20(±0.0)
5	浅沼達也	東京大	5m90(+0.1)
6	上田瑛久	一橋大	4m99(+1.7)

男子走高跳決勝			
1	石川順章	一橋大	1m90
2	坂本智	東京大	1m80
3	小沢順	一橋大	1m70
4	荒井博貴	東京大	1m60
5	土居富裕	東京大	1m50
6	玉居子直紀	一橋大	1m40

男子砲丸投決勝			
1	石川順章	一橋大	9m58
2	寺島孝明	東京大	9m17
3	原湖楠	東京大	9m09
4	片山卓也	東京大	8m95
5	高松祐輝	一橋大	8m34
6	重光成一郎	一橋大	8m32

男子円盤投決勝

1	佐々木駿	東京大	35m02
2	片山卓也	東京大	28m30
3	櫻井綾人	一橋大	27m94
4	原湖楠	東京大	25m27
5	高松佑輝	一橋大	25m23
6	石川順章	一橋大	23m50

男子やり投決勝

1	重光成一郎	一橋大	50m44
2	高松佑輝	一橋大	43m64
3	戸田康紀	一橋大	38m99
4	原湖楠	東京大	38m22
5	山東誉英	東京大	28m75
–	今村昌平	東京大	DNS

男子トラック順位

1	東京大	31(優勝数 5)
2	一橋大	31(優勝数 2)

男子フィールド順位

1	一橋大	25(優勝数 3)
2	東京大	25(優勝数 2)

男子総合順位

1	東京大	56(優勝数 7)
2	一橋大	56(優勝数 5)

女子 100m 決勝 (±0.0)

1	久保木結	東京大	13”43
2	杉江祐里	津田塾	13”53
3	清水蘭	東京大	13”63
4	池ヶ谷真希	一橋大	13”75
5	川田真梨子	津田塾	13”77

女子 400m 決勝

1	日下桃子	東京大	1’01”62
2	杉江祐里	津田塾	1’02”62
3	渡邊知世	津田塾	1’05”23
4	池ヶ谷真希	一橋大	1’05”52
5	浜松由莉	東京大	1’08”23

女子 1500m 決勝

1	日下桃子	東京大	5’06”15
2	杉浦奈実	東京大	5’16”35
3	中島加奈恵	津田塾	5’27”76
4	大塚理絵	津田塾	5’48”20
5	池ケ谷真希	一橋大	6’39”29

女子 4 × 100mR 決勝

1	東京大	52”51
(鈴木-清水-高山-久保木)		
2	津田塾	53”10

女子走幅跳決勝

1	高山花子	東京大	4m89(±0.0)
2	池ヶ谷真希	一橋大	4m73(±0.0)
3	花岡恵梨香	津田塾	4m52(+1.2)
4	清水蘭	東京大	4m05(±0.0)
5	小野寺みずほ	津田塾	3m93(±0.0)

女子砲丸投決勝

1	楠木千尋	東京大	8m28
2	川田真梨子	津田塾	7m97
3	池ケ谷真希	一橋大	7m62
4	小野寺みずほ	津田塾	6m95
5	岩上佳世	東京大	6m28

女子トラック順位

1	東京大	35
2	津田塾	27
3	一橋大	8

女子フィールド順位

1	東京大	17
2	津田塾	14
3	一橋大	9

女子総合順位

1	東京大	52
2	津田塾	41
3	一橋大	17

2　自己記録更新者一覧 2009.7.27 〜9.12

8/15-16 国体熊本予選 (熊本)

200m	西田昂広 (3 年)	22”45(−0.3)
走幅跳	西田昂広 (3 年)	6m92(+0.3)

8/22-23 富山カップ (富山)

400mH	酒谷彰一 (3 年)	56”01

9/12 一橋戦 (町田)

100m	鈴木理香 (1 年)	13”80(±0.0)
100m	西田昂広 (3 年)	11”15(+0.1)
400m	定金駿介 (3 年)	50”42
400m	増本健太郎 (3 年)	50”60
400m	赤木裕 (3 年)	51”24
400m	江間輝裕 (3 年)	53”65
1500m	杉浦奈実 (1 年)	5’16”35
110mH	増本健太郎 (3 年)	15”90(±0.0)
砲丸投	岩上佳世 (1 年)	6m28
円盤投	佐々木駿 (1 年)	35m12
円盤投	片山卓也 (1 年)	28m30

3　2009 年度部内 5 傑

男子 100m

1	西田昂広 (3 年)	11”15(+0.1)	9.12
2	都井紘 (4 年)	11”22(+0.0)	5.31
3	春日慶輝 (2 年)	11”23(−0.3)	4.5
4	中嶋毅彰 (4 年)	11”42(+0.2)	5.31
5	朏島一樹 (2 年)	11”51(不明)	9.12

男子 200m

1	西田昂広 (3 年)	22”45(−0.3)	8.16
2	増本健太郎 (3 年)	22”82(−2.1)	7.26
3	真木伸浩 (1 年)	23”63(−1.7)	7.26
4	都井紘 (4 年)	23”70(−0.5)	5.6
5	片島拓弥 (4 年)	24”00(+0.1)	6.7

男子 400m

1	朏島一樹 (2 年)	50”37	9.12
2	定金駿介 (3 年)	50”42	6.7
3	増本健太郎 (3 年)	50”60	9.12
4	大澤渉 (1 年)	50”71	9.12
5	赤木裕 (3 年)	51”24	9.12

男子 800m

1	坂井啓一 (4 年)	1’56”85	5.31
2	渡邉拓也 (3 年)	1’57”13	7.4
3	須田遊人 (4 年)	2’01”46	7.4
4	川口祐貴 (4 年)	2’01”94	5.6
5	園部竜也 (3 年)	2’01”99	6.28

男子 1500m

1	山田竜也 (2 年)	4’03”65	7.26
2	東大貴 (2 年)	4’04”30	5.31
3	竹内真裕 (2 年)	4’08”51	7.26
4	池田剛志 (2 年)	4’09”18	5.6
5	渡邊拓也 (3 年)	4’13”24	9.12

男子 5000m

1	竹俣直道 (3 年)	14’45”00	4.5
2	山田竜也 (2 年)	15’03”08	5.3
3	東大貴 (2 年)	15’07”90	6.14
4	宮野健司 (2 年)	15’15”92	4.5
5	山崎貴裕 (4 年)	15’23”34	6.14

男子 10000m

1	宮野健司 (2 年)	32’04”65	7.5

男子 ハーフマラソン

1	山田健太郎 (4 年)	1:11’06	5.24
2	宮野健司 (2 年)	1:12’49	4.12
3	中島圭一 (3 年)	1:16’11	4.12

男子 110mH

1	酒谷彰一 (3 年)	15”07(+1.6)	7.4
2	増本健太郎 (3 年)	15”90(±0.0)	9.12
3	江間輝裕 (3 年)	16”28(+0.0)	5.31
4	高木海平 (2 年)	16”40(+0.0)	6.7
5	原湖楠 (3 年)	19”21(+0.1)	5.3

男子 400mH

1	赤木裕 (3 年)	55”67	7.26
2	高木海平 (2 年)	55”91	7.26
3	酒谷彰一 (3 年)	56”01	9.12
4	上松祐太 (1 年)	57”07	5.23
5	江間輝裕 (3 年)	57”72	7.4

男子 3000mSC

1	山崎貴裕 (4 年)	9’45”17	7.4
2	青木佑樹 (2 年)	9’58”45	7.4
3	野村圭吾 (4 年)	10’05”02	4.5
4	庄司健太 (3 年)	10’14”09	4.5
5	池田剛志 (2 年)	10’19”11	5.3

男子 5000mW

1	早川晃司 (3 年)	23'31"29	7.4
2	北沢太郎 (5 年)	27'50"64	7.4

男子 10000mW

1	早川晃司 (3 年)	51'26"60	5.17
2	北沢太郎 (5 年)	52'26"73	5.17

男子 走幅跳

1	西田昂広 (3 年)	6m92(+0.3)	8.15
2	廣瀬彬 (4 年)	6m44(+0.3)	4.5
3	川原拓也 (1 年)	6m06(+1.6)	7.25
4	定金駿介 (3 年)	6m03(+0.5)	7.4
5	浅沼達也 (4 年)	6m00(+0.0)	5.31

男子 三段跳

1	廣瀬彬 (4 年)	14m38(+1.0)	5.16
2	定金駿介 (3 年)	14m21(+0.3)	7.26
3	西田昂広 (3 年)	13m84(−0.5)	5.31
4	川原拓也 (1 年)	13m16(+0.8)	7.4

男子 走高跳

1	坂本智 (3 年)	1m80	7.26
2	荒井博貴 (4 年)	1m65	7.26
2	地子智浩 (3 年)	1m65	7.26
4	土居富裕 (3 年)	1m50	9.12
5	原湖楠 (3 年)	1m40	5.2

男子 棒高跳

1	土居富裕 (2 年)	3m90	5.31
2	原湖楠 (3 年)	3m40	5.31
3	黄暁南 (3 年)	3m30	5.31

男子 砲丸投

1	原湖楠 (3 年)	9m73	6.28
2	谷彰一郎 (4 年)	9m56	7.26
3	寺島孝明 (4 年)	9m31	5.31
4	片山卓也 (1 年)	8m95	9.12
5	平山蒼太 (1 年)	7m91	7.4

男子 円盤投

1	佐々木駿 (1 年)	35m02	9.12
2	谷彰一郎 (4 年)	29m48	5.24
3	片山卓也 (1 年)	28m30	9.12
4	原湖楠 (3 年)	27m44	4.5

男子 ハンマー投

1	寺島孝明 (4 年)	41m95	7.25
2	千葉伸宏 (3 年)	31m64	7.25
3	今村昌平 (1 年)	15m21	7.25

男子 やり投

1	谷彰一郎 (4 年)	62m59	5.17
2	千葉伸宏 (3 年)	52m55	4.5
3	原湖楠 (3 年)	43m39	7.4
4	山東誉英 (1 年)	28m75	9.12

男子 十種競技

1	原湖楠 (3 年)	4969 点	5.2-3

女子 100m

1	清水蘭 (4 年)	13"29(+0.1)	5.31
2	久保木結 (1 年)	13"43(±0.0)	9.12
3	高山花子 (3 年)	13"67(+0.1)	5.31
4	鈴木理香 (1 年)	13"80(±0.0)	9.12
5	大久保渥子 (4 年)	13"96(−0.4)	7.4

女子 200m

1	清水蘭 (4 年)	27"90(+1.8)	7.4

女子 400m

1	日下桃子 (4 年)	1'00"65	5.31
2	浜松由莉 (2 年)	1'08"23	9.12
3	鈴木恵美里 (2 年)	1'14"84	7.26

女子 800m

1	日下桃子 (4 年)	2'18"65	7.4
2	浜松由莉 (1 年)	2'28"85	7.26
3	鈴木恵美里 (2 年)	2'41"51	5.31

女子 1500m

1	日下桃子 (4 年)	5'06"15	9.12
2	杉浦奈実 (1 年)	5'16"35	9.12
3	浜松由莉 (1 年)	5'17"40	9.12
4	立岡美夏子 (1 年)	5'38"03	9.12

女子 3000m

1	杉浦奈美 (1 年)	11'31"62	7.4
2	立岡美夏子 (1 年)	11'53"85	7.26

女子 110mH

1	久保木結 (1 年)	15"32(+1.1)	7.4

女子 走幅跳

1	高山花子 (3 年)	4m96(+1.0)	7.26
2	大久保渥子 (4 年)	4m51(+0.7)	7.26
3	清水蘭 (4 年)	4m05(±0.0)	9.12

女子 走高跳

1	丹家里枝 (1 年)	1m43	7.26
2	鈴木理香 (1 年)	1m25	7.26

女子 砲丸投

1　楠木千尋 (4 年)　8m35　7.4
2　岩上佳世 (1 年)　6m28　9.12

女子 円盤投

1　楠木千尋 (4 年)　18m36　7.4

女子 やり投

1　楠木千尋 (4 年)　23m13　7.4

女子 ハンマー投

1　楠木千尋 (4 年)　27m05　5.17

4　主務より

4.1　応援 OB・OG 紹介

9 月 12 日 (土)、町田市営陸上競技場にて行われました一橋戦に際し、応援に駆けつけて下さった OB、OG の皆様のご氏名を報告いたします。(敬称略)

1979 年卒　中谷敬二
1983 年卒　八田秀雄
1994 年卒　工藤麻衣子
2005 年卒　藤田靖浩
2006 年卒　村田拓哉
2007 年卒　田中啓
2008 年卒　山本卓典
2009 年卒　金尾太郎
2009 年卒　小福田大輔
2009 年卒　武安光太郎
2009 年卒　松本光一

ご多忙の中、お越し下さいましたことに心よりお礼申し上げます。

4.2　行事予定

今後の行事予定をお知らせいたします。

- 京大戦 10/3(土)　駒場
- 箱根駅伝予選会 10/17(土)　昭和記念公園
- ゴルフコンペ 11/15(日)　川崎国際生田緑地ゴルフ場

4.3　訃報

- 1974(昭和 49) 年卒の佐宗邦夫先輩が、8 月 9 日にお亡くなりになられました。
- 1975(昭和 50) 年卒の岩柳茂樹先輩が、1 月 29 日にお亡くなりになられました。

謹んでご冥福をお祈りいたします。

4.4　連絡先 (慶弔等)

慶弔のご連絡は下記連絡先までお願い申し上げます。

総務委員長:田上静之
TEL：03-3835-6792
(凸版印刷株式会社経営監査室)
E-mail：seishi.tanoue@toppan.co.jp

学生主務:坂井啓一
〒 113-0021 文京区本駒込 2-7-14　ファーバング 203
TEL：090-5561-4320
FAX：042-247-8726(FAX 係：早川)
E-mail：shumu@uttf.org

＊この部便りは下記 web ページでもご覧になれます＊
http://www.uttf.org/
＊部便り郵送不要の方はお手数ですが学生主務までご連絡下さい＊

以上です。今後ともご指導ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

主務　坂井啓一

文責：柴田渥史